

**主のご復活、おめでとうございます！**

今年の復活祭は4月1日。新年度の幕開けのお祝いと重なります。東日本大震災から7年という歳月を思い、「それから」の今を見つめた3月を背に、日本社会の新年がスタートします。十字架上の御姿を忘れずに、主の復活のあかしへと歩みだしたマグダラのマリアと使徒たち（ヨハネ 20章参照）の情熱を心に呼び起こしながら、私たちも、メディアを通しての福音宣教の「これから」に向かって、満願をこめてリスタートしましょう！


**第42回日本カトリック映画賞 『ブランカとギター弾き』 に決定！**
**長谷井 宏紀 監督 / 2017年作品**
**授賞式&上映会 2018年5月12(土) 13:00上映 なかのZERO 大ホール**

今回の受賞作『ブランカとギター弾き』は、長谷井宏紀監督がフィリピンのストリートチルドレンとの関わりの中で、一人の女の子と盲目のギター弾きにスポットを当て、物語が綴られています。カトリック映画賞には珍しく舞台は、フィリピン、本編の言語はタガログ語が使われ、登場人物もすべてフィリピンの人が登場します。長谷井監督は、ヴェネツィア国際映画祭 2015 でマジックランタン賞ほかを受賞、また昨年の最も優れた新人映画監督に贈られる「第22回新藤兼人賞 2017」でも、見事金賞を受賞されています。物語は、フィリピンのスラム街に住む 11 歳の少女ブランカと盲目のギター弾きピーターとの出会いから始まります。ブランカには両親がなく、窃盗をしながら過ごしている毎日でしたが、ある日テレビで孤児たちの里親になった富豪の番組を目にしたことがきっかけで「母親を買う」ということを思いつきます。そして、知り合ったピーターと一緒に「母親を買う旅」が始まります。「母親を買うのは無理だ」というピーターにブランカが「大人は子どもを買うのに、子どもは大人を買えないの？」と返す言葉は、お金を出せばほとんどのものが手に入る現代社会の風潮に、子ども目線で見えた大人社会への疑問ではないでしょうか。もう一つお金で買えないものは、「家族の愛情」です。ブランカは、ピーターと接することで愛情の素晴らしさ、温かさに気がついていきます。彼らは本当に家族になれるのでしょうか。その答えは、ラストシーンで表されています。



©2015-ALL Rights Reserved Dorje Film

今回は、もう一作品、松本准平監督の『パーフェクト・レボリューション』に「シグニス特別賞」を授与いたします。松本監督は 2014 年、作家・中村文則の小説を原作とした『最後の命』で NY チェルシー映画祭・最優秀脚本賞を受賞されました。『パーフェクト・レボリューション』は、幼い頃に脳性麻痺をわずらった男性（クマ）と精神的な障害を抱えた彼女（ミツ）との恋愛を通して、「生まれも性別も、職業も能力も、お金も年齢も、幸せには関係ない。世界に証明するの。本当の幸せを」という改革（レボリューション）を掲げた映画です。監督は、「障がい者を社会的弱者としてではなく、ふつうの人間として描きたいという思いが湧いてきた」と、語っています。この作品を通して、彼らへの誤解や偏見が解け、キリストの愛の心で受け入れができたらと思います。

★6月23日（土）カトリック麹町聖イグナチオ教会ヨセフホール（時間未定）にて上映会と松本監督と晴佐久神父の対談を行います。

皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

チケット：1,000円 / 高校生以下、障がい者（含介助者1名）800円

販売所：聖イグナチオ教会案内所、スペース セントポール（東京カテドラル内）、サンパウロ（四ツ谷駅前）、ドン・ボスコ社（四ツ谷）、高円寺教会天使の森

メール・電話での申込み：SIGNIS JAPAN 事務局 info@signis-japan.org / TEL 090-8700-6860（担当 大沼）

バリアフリーについて ★字幕付き上映、対談は要約筆記および手話通訳付きです。

第23回「教会とインターネットセミナー」報告  
- キリスト教会の福音発信術を考える -

3月3日(土)カトリック上野教会にて「第23回 教会とインターネットセミナー」が開催され、小教区、修道会のホームページ製作に関わる方など、約50名が参加された。



晴佐久神父(シグニス顧問司祭)の開会の祈りに始まり、教会ホームページ(以下HP)製作事業「BREADFISH(ブレッドフィッシュ)」代表の丸山泰地氏(写真)に「キリスト教会の情報発信術」というテーマで講演して頂いた。「教会HPの目的は、初めての方にいかに教会に来てもらうかである。HPで福音を伝えるということは、ミスマッチではないか。それよりもいかに検索で引っかかり、興味を持ち、行ってみたいという気にさせるか、そこが問題である。」という趣旨で、プロテスタント教会のHPを多数手がけてこられた体験から、きわめて具体的で実践的な提案を頂いた。

続いてシグニス側より「教会HP応援サイト アルファオメガ」、「ウェブマガジン AMOR」を紹介した。

休憩後のラウンドテーブルでは、まず松戸教会、鷺沼教会のHP担当者からそれぞれの教会HPを紹介して頂き、それを題材として自由な意見交換を行った。特に、HPをスマホ対応にすることについて、またSNSとの関係について関心が集まった。

最後にシグニス事務局から昨年秋に行われた「シグニス東アジア会議」の報告と、今年5月に開催される日本カトリック映画賞授賞式・上映会の案内をして閉会となった。  
(土屋)

<参加者の方からの感想>

久しぶりに参加させていただきました。教会に興味を持っておられる段階の方に、どのように知ってもらうか、何を知ってもらうかに焦点を当て、来てもらう足掛かりとなる場を作ることに傾注する、というのが今回講演されたBREADFISH社丸山様のご意見だったと思います。新しい方を呼び込んでいかなければ共同体は鬱滞してしまいます。そのために、教会ホームページ制作会社という専門家の知見を伺うことができたのはとても有意義でした。

また松戸教会のように、教会ホームページというベースを作ったうえで、教会内のグループがそれぞれに発信できるようにしているのは、教会共同体全体で作り上げている、という感じでとてもよかったです。

教会のホームページを、新しい方が覗き込む「玄関」として考えるのか、さまざまなお知らせが貼りだされている「玄関ホール」として考えるのか。その教会が現状で、何を最優先事項とするのかによって、切り口も異なってくるのが学べて、とてもよいセミナーでした。ありがとうございました。(カトリック鷺沼教会 田土佐知子さん)

今回、ご招待を頂き、初めて参加し、松戸教会のインターネットを使った取り組みをお話させて頂きました。他教派の方々も含め、実際にウェブサイトの担当を務めていらっしゃる方々の真摯な姿勢を感じ、もう少ししっかりと準備をして来ればよかったと反省しています。晴佐久神父様が開会の際にインターネットを「人と人が分かり合えるきっかけを与えるツール」とおっしゃった事、そして、今回のセミナーの講師の丸山先生の講演から、ネットは「福音を伝えるものではなく、福音に触れた人々がいかに教会を訪れやすくするための橋渡しをするか」という教会のウェブサイト運営の基礎的な視点、そして、「ネットを見て教会を訪れた人々をどのように迎え入れるかがいかに大事か」という事などを改めて感じ、今後の活動に活かす事が出来ればと思いました。

最後になりましたが、貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。また、機会があれば、伺う事が出来ればと思えます。

(カトリック松戸教会 田中良知さん)

「ホームページを見て初めて教会に来ました！」こんな言葉を聞いたのは最近だった。ホームページ編集のメンバーの一人として本当に嬉しかった。昨年の中谷先生の講演のお蔭だなあと思い、今年のインターネットセミナーには、かなり無理をして参加した。講演は、教会のホームページを50教会以上作られている丸山泰地先生の熱のこもったお話で、教会ホームページとは何かを、とても考えさせられた。例えば、ある女性が一度近くの教会に行ってみたくなった、何時どのように行くのか、服装は、子供も連れていけるのか・・・そんな疑問に簡単に優しく答えてくれる情報発信とは何かだ。改良点をいくつか思いついた。もちろん、スマホ対応とか、SNS連携、編集グループの組織など、現場の担当者のホットな話題提供もあり、シグニスのWeb雑誌AMORやホームページ応援サイトの興味ある話ありで、担当者に嬉しい講演会だった。感謝！

(カトリック高幡教会 森 裕行さん)



セミナー会場風景